

# 総合的な学習の時間 研究資料

佐久市立浅間中学校



全校研究テーマ

**生徒が主役となり探究的に作り上げる授業**

総合的な学習の時間 研究テーマ

**「問い」から始まる探究的な学び**

日 時 令和6年11月26日（火）

共同研究者 文教大学教授 藤森裕治 先生

授業学年 3学年（男子118（8）名、女子116名（1） 計235（9）名）

授業者 3学年職員（総合的な学習の時間担当：柳原一步）

単元名 卒業探究（全40時間）

# 日 程

13:00	13:25	13:50	14:00	15:00	15:10	15:45	16:30	16:45
受付	開会式	移動	公開授業	移動	授業振り返り	講演会	閉会式	

(1) 受付 13:00 ~ 13:20  
 ご来賓・指導者・一般参加者【職員玄関】  
 保護者・地域の関係者【体育館入口】

(2) 開会式 【浅間ホール】 13:25 ~ 13:50

- ① 開式の言葉
- ② 主催者挨拶 信濃教育会 研究調査部長 和田 敦 様
- ③ 共同研究者紹介 佐久市立浅間中学校長 宮島 卓朗
- ④ 研究概要説明 研究主任 小林 拓也  
 ~アウトプットとフィードバック実践編~
- ⑤ 諸連絡
- ⑥ 閉式の言葉

—————休憩・移動—————

(3) 公開授業 【体育館】 14:00 ~ 15:00

○ 単元名 卒業探究

**【参観される先生方へのお願い】**

本時は、生徒との対話に参加していただく形式の授業となります。3年生がこれまでの探究を発表（＝アウトプット）しますので、先生方は質問や意見、助言（＝フィードバック）をお願いします。なお、テーマや問いの一覧やブース一覧につきましては当日配布いたします。

—————休憩・移動—————

(4) 授業振り返り 【浅間ホール】 15:10 ~ 15:40

- ・研究会について／授業者振り返り／質疑応答 (05')
- ・アウトプット、フィードバックの様子共有 (35')

(5) 講演会 【浅間ホール】 15:45 ~ 16:30

文教大学教育学部 教授 藤森 裕治 様

(6) 閉会式 【浅間ホール】 16:30 ~ 16:40

- ① 開式の言葉
- ② 会場校お礼の言葉 佐久市立浅間中学校長 宮島 卓朗
- ③ 諸連絡
- ④ 閉式の言葉

## 「問い」から始まる探究的な学び

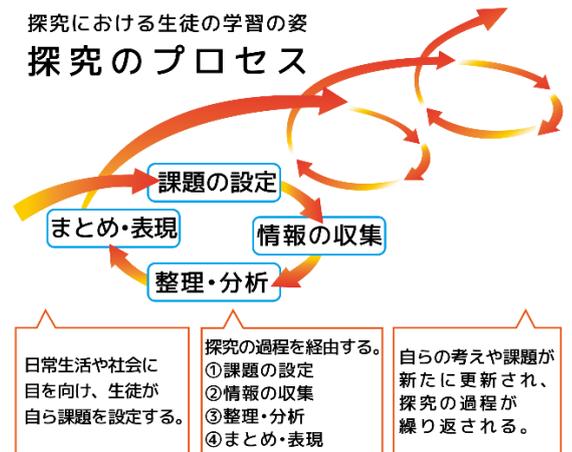
### 2 研究テーマの理由

昨年度、1学年では校区内のおよそ20箇所をゴールにした「地域巡り」を秋に実施した。

岩村田にある鼻顔稲荷神社を目的地に選んだS生のグループでは、「鼻顔稲荷とはどのような神社なのか？」という問いから追究をスタートさせた。しかしながらこの問いは、調査すれば結果が分かってしまうため、追究の深まりが見られなかった。

そこで、教師は、探究テーマ「佐久市に観光客をたくさん集める方法を考えよう」という提案型の課題を設定することとした。この課題に対してS生たちは、「朱色の鳥居がたくさん並んでいて、小学校の校庭にあった遊具（雲梯）みたいだった」「急な坂道の連続でとても疲れた」等、実際に訪れて感じたことを共有し直すことで、「運動ができる神社にできないか？」という新たな問いを設定することができた。

#### 探究における生徒の学習の姿 探究のプロセス



フィードバックを見返すS生

実現することは難しい内容ではあったが、「運動できる神社【HANAZ RAP】」を追究テーマに据え、発表原稿をまとめ、2月の参観日に提案内容を発表した。S生らのアウトプットに対し、地域の方や保護者から「アイデアや着眼点が面白いがお金はどうするのか」「もっとたくさんの運動メニューを考えた方が良い」などのフィードバックをもらうことができた。それらを見返しながらS生らは「もっと運動メニューを増やさないといけないね」等と新たに追究したい内容を見いだすことができた。

昨年度の1学年の実践から、総合的な学習の時間の探究化を図るためのポイントとして示唆されたことは、

- ① 地域の「ひと・こと・もの」に実際に触れることができる時間と機会を確保すること
- ② 「問い」の内容によって探究の質が変わること
- ③ アウトプットの機会を設定し、フィードバックを受けることで新たな探究サイクルが生まれること

である。

昨年度の1学年の実践を生かし、今年度より3学年では、「卒業探究」と題した新たなカリキュラム開発に挑戦している。カリキュラム開発にあたり、我々教師は、生徒一人ひとりが各自の興味関心に基づき、ワクワク感を抱きながら楽しく追究する姿を大切に考えてきた。

そんな生徒の姿を願って学習をスタートさせたが、最初に直面した課題はやはり「問い」の設定だった。探究のプロセスを動かす原動力となる「問い」がなかなか据わらなかった。「何をすれば良いのか」と戸惑う生徒たちを前に、私たちは「何をすれば生徒は問いをもてるのか」と悩んだ。しかし、「ひと・こと・もの」に触れる時間を確保できるよう、焦らずに「生徒の中に問いが生まれるまで、時間がかかっても生徒と対話をしながら一緒に問いを考えよう」と伴走者としてのスタンスを守り続けた。

その中で、少しずつ生徒の中から問いが出始めた。最初の問いの質は高くない生徒も多かったが、その問いを調べ広げていく中で、真理を追究する「深まる問い」や、発見や発想を生み出す「高める問い」へと変化する生徒の姿もみられてきた。その端緒となったのが、生徒同士や教師とのアウトプットとフィードバックであった。

このようにみると今年度の研究の中心にあるのが「問い」であることが見えてくる。そこで、総合的な学習の時間における研究テーマを“「問い」から始まる探究的な学び”と据え、研究を進めることにした。

### 3 これまでの探究ストーリー① 教師のあゆみ

#### 【0年目の浅間中学校 ～改革が必要な？～】

総合的な学習の時間（本校では「浅間の時間」と呼ぶため、以降は「浅間の時間」と表現する）での取り組みとして本校が行ってきたことは、いわゆる学年総合と呼ばれるもので、「1年生は福祉体験学習」「2年生は職場体験学習」「3年生はキャリア（進路）学習」へ学年の全生徒が取り組み、残った時間は学年行事の準備に充てられていた。生徒も教職員も枠の中でそれなりに楽しみ、その枠の中での成長をそれなりに享受していた。そんな折、本校が「学びの改革パイオニア推進校」の指定を受けることになった。本校に改革は必要なのか。必要だとすれば、それはどのような改革なのか。それを考えることが「浅間探究学校」への第一歩となった。

#### 【1年目の浅間中学校 ～「探究」って何？～】

本校のグランドデザインに「探究」という言葉が登場した。しかし具体的な学びの場面や学びの姿のイメージを持つことができる教職員は少なく、それなら「まずは自分たちで動いてみよう」ということで、『大人の遠足』が計画された。教職員一人一人が、自分の興味あることでテーマを決め、実際に学校から外へ出てみようという企画である。史跡を巡ったり、商店街を散策したり、食を堪能したりとそれぞれが決めたテーマに沿って思い思いの時間を過ごした。後日その様子を簡単なレポートにまとめ、生徒も見られるよう廊下へ掲示した。

風越学園を視察研修する機会があり、研究や浅間の時間の係中心に参加した。自分自身の興味関心に沿って活動を深めていく生徒や意欲的にアウトプットやフィードバックを展開する生徒同士や生徒と先生方とのかかわりに出会い、「探究的な学びの姿」が具体的に見え始めた。風越学園だからこそできるものがあるように、浅間中学校だからこそできる学びがあるはずと、より力強くなった「浅間探究学校」への第二歩目。

#### 【2年目の浅間中学校 ～あれっ？～】

2年目のスタートを迎える前に、「浅間の時間」の見直しを行った。紋切り型の活動から軸の通った活動へ、受動的な問いから主体的な問いへ。地域を知り、地域と関わり、地域の外へと探究が広がり、深まり、高まっていく浅間の時間にできないかと考えた。

4月に行っている「学習オリエンテーション」の内容を変えてみた。授業の受け方や宿題への取り組み方を説明するのではなく、学校での学びの質が変わっていくことや、得た知識や技能という武器を、様々な体験の中で使いこなしていくことが大切であることを、生徒と教職員とで確認した。

1年生は地域を知るために学校から飛び出した。2年生は地域と関わるために「マイ・プロフェッショナル・プロジェクト」（＝地域のプロを招いた職業ゼミ）や「職業体験」に飛び込んだ。3年生は自分の興味関心からの問いを地域の外へまで広げて立てた。探究活動へ楽しそうに取り組む生徒の姿や声も学校の中に広がりつつある。自分の「好き」や「楽しい」、「なぜ」をとことん追求できる「浅間探究学校」が、今まさに産声を上げようとしている。



地域のプロを招いて MPP を実施

もちろんそこには生みの苦しみがあるが、表面的な改革はただの一時的な変化でしかないと思う。浅間中学校にはあふれるほどの地域素材がある。大規模校ならではの人間関係の広がりがある。思うように進まない探究を、伴走者として共に楽しむ教職員がいる。浅間中学校だからこそできる学びがそこにある。第三步目が踏み出された。

### 4 これまでの探究ストーリー② 生徒のあゆみ

#### 【2年目の浅間中学校 ～やばい！～】

「やばい！これ楽しそう！」

そんなT生の声が聞こえたのは、3年生の卒業探究の問いを立てる場面のことだった。浅間中学校では3年間を通した探究的な学びの活動を計画し、3学年は「卒業探究」（以下、卒探）を位置づけた。これは、1・2

年生での自身の探究経験に基づいて自ら問いを立て、1年間の個人探究を行う活動である。

しかし今年度の3年生は、「浅間探究学校」への改革の途上に位置していて、1・2年生での経験的積み上げがない中での卒探のスタートとなってしまった。学年で係によるオリエンテーションを行い、1年間の見通しを持たせたうえで活動に入ったが、問いを立てるのに苦勞する姿が多くみられた。そこで、自分の興味関心と向き合い、広げていくための手立てとして「マインドマップ」を作成してみた。中心には「私の好きなこと」を据えた。

T生は食に興味を持ち、マップを広げていった。その中で一番伸び、枝の広がりを見せたのが「コロッケ」だった。しかしそこでT生は悩んでしまった。「果たしてコロッケなんかを問いにできていいのだろうか?」「自分が好きだからというだけでコロッケをテーマにしてしまっているのだろうか?」「この問いで1年間の卒探を進めていくことができるのだろうか?」その様子を見ていた担任が、「コロッケがテーマなんて楽しそうじゃん。せっかくなら、佐久のオリジナルコロッケが作れたらいいよね。」と声をかけた。その時のT生のつぶやきが冒頭の一言である。

そこからのT生は、まさに自走する学び手として探究を進めていった。夏休みには、可能な範囲での食べ歩きを行い、その詳細をレポートにまとめた。また、近隣の惣菜店へ取材に行き、材料や作り方のアドバイスをもらった。佐久の食材である「安養寺味噌」と「アオバツ」にコロッケの食材として目を付け、試作を繰り返した。夏休みが明けるところには、オリジナルのレシピが完成していた。



T生の「卒探ノート」

今後の展望としてT生は、多くの人に食べてもらいたいという願いを持った。いくつかのフィードバックをもらう中で、給食に出してもらえたら、多くの人に食べてもらえるかもしれないという見通しを持つことができた。栄養教諭に相談し、給食で出すためにブラッシュアップしたレシピ(アレルギー対応のため)を考えた。しかしその手間と食数から、給食へ出すことを断念しなければならなくなった。それでもT生は楽しそうに探究を進めている。

「課題を一つ一つクリアしていくのが楽しいんです。うまくいってもいなくても、その都度反応をもらえるのが楽しいんです。与えられたテーマだと、あまりそういうことがなかったから…」

生徒のそのような変化や感想を身近で見聞きできるのが、伴走者としての楽しみかもしれない。

## 5 公開授業について

### 1. 単元目標

生徒一人ひとりの興味・関心から生まれた「問い」について、実際に現場を訪れたり、話を聞いたりして情報を集め、解明する活動を通して、課題を解決していく方法(情報の収集の仕方や整理・分析する方法)を理解し、相手意識をもって表現する方法について考えるとともに、主体的・協働的に探究学習に取り組み、実社会に生かそうとする。

### 2. 主な学習活動と単元計画

学習過程	○学習活動 ・生徒の意識	評価の視点			評価方法
		知	思	態	
課題の設定 (興味関心探し) 【5～7月】 2時間	○自分の興味・関心がある物事について考える。 ・マッピングで書き出してみると、自分の好きなもので気になることがあるな。 ・自分はコロッケが好きだから、コロッケについて調べてみようかな。 ・私の家の近くにある湯川が気になる。いつも遊んでいるけど色々な生物がいるな。			○	☆興味・関心があることを主体的に考えたり、選んだりしようとしているか、活動の姿やワークシートで評価する。

<p>課題の設定 (問いの設定) 【5～7月】 5時間</p>	<p>○興味・関心があるテーマについて考えるなかで、自分が疑問に思うことを「問い」として設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐久市のものを使って My ベストコロッケを作りたいな。</li> <li>・湯川が身近な存在だからよく知りたい。どんな生物が住んでいるのだろうか？</li> </ul>	○		○	<p>☆興味・関心があることから「問い」を見いだそうとしているか、活動の姿やワークシートで評価する。</p>
<p>課題の設定 (問いの設定) 【5～7月】 情報収集 【6～8月】 10時間</p>	<p>○自分の「問い」について、カテゴリ別に分かれて情報を集め、「問い」を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロッケってどのように作るのだろう。おいしさの秘訣は何かな？</li> <li>・水質によって、存在する生物は変わるのかな？市役所の環境政策課に聞いてみよう。実際に湯川に行き、どんな生物がいるか調べよう。</li> </ul> <p>○教師などと問答を繰り返し、「問い」を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐久市のものは安養寺みそが思いつくけど、他に使えるような素材はないかな？</li> <li>・実際に生物を調べてみたら、家の近くの水質がわかった。この後は、何をしたいかな？</li> </ul>	○		○	<p>☆主体的に情報を集め、そこから「問い」を深めようとしているかを活動の姿やワークシートから評価する。</p> <p>☆主体的に教師や仲間と関わり、自らの「問い」について考えを深めようとしているか活動の姿から評価する。</p>
<p>情報収集 【7、8月】 3時間 夏休み</p>	<p>○情報収集のために夏休みに行く活動の計画を立て、探究の調整を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分でコロッケの試作品をいくつか作ってみて、おいしいコロッケを開発したいな。</li> <li>・自分の家の湯川には調査に行ったから、今度は湯川の上流や、下流の方にも調査に行きたい。</li> </ul>	○		○	<p>☆自ら調整し、情報を収集しようとしているか、生徒の姿やワークシートから評価する。</p>
<p>整理・分析 まとめ・表現 【9、10月】 2時間</p>	<p>○夏休みまでに探究してきた内容をミニポスターにまとめ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロッケを食べ比べてみたら、食材にこだわっていることがわかった。衣の食感も大切だな。実際にレシピも考案してみよう。</li> <li>・上流の水はきれいだったな。下流は川の流が悪いところもあって、泥がたまっていたな。</li> </ul>	○		○	<p>☆収集した情報を自らの探究に活かし、考えをまとめることができているか、ミニポスターや発表の姿から評価する。</p>
<p>課題の設定 (新たな問い) 情報収集 【9、10月】 4時間</p>	<p>○今まで探究してきたことを活かし、卒業探究をどのように実生活と結びつけるか、これからの卒業探究の展望を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の食材を使ったおいしいコロッケのレシピを考えた。たくさんの人に食べてほしいな。</li> <li>・台風の影響で川の生態系が変わったかもしれない。ホタルを見ることができたのもそのおかげかもしれない。昔と今ではどのような違いがあったのだろうか。台風の影響で見なくなってしまった生物もいるかもしれない。</li> </ul>	○		○	<p>☆発表などで深めた卒業探究を、実生活に結びつけようと考えているか、また、結びつけ方は効果的か、追究の姿やワークシートから評価する。</p>

<p>整理・分析 まとめ・表現 【10、11月】 6時間  本時</p>	<p>○今までの卒業探究を模造紙にまとめ、他の人に聞いてもらう中間発表会を行い、発表を通して探究していくための視野を広げる。</p> <p>・より多くの人にコロッケの魅力を知ってもらいたい。たくさんの人にMyベストコロッケを食べてもらって、感想をもらいたい。</p> <p>・昔と今では、湯川の様子はどのように変わったかな。知っている人はいないだろうか。川が濁ってしまうとまたホテルが見られなくなるかもしれない。川が濁る原因は他に何かあるのだろうか。</p>	○	○	○	<p>☆まとめ方や話し方に工夫があるか、ポスターや発表の姿から評価する。</p> <p>☆フィードバックを受けて、自らの視野を広げ、今後の探究活動に活かそうとしているか、ワークシートから評価する。</p>
<p>整理・分析 【11、12月】 3時間</p>	<p>○中間発表会でのアドバイスや変化した考えを活かし、卒業探究発表会に向けて、自分の探究をまとめる。</p> <p>・みんなに食べてもらったら、もっとよくしているアドバイスをもらえた。改良してみよう。</p> <p>・川が濁る原因はたくさんあった。きれいな川にしていくために気をつけなければならないことを様々な人に知ってもらおう。</p>		○	○	<p>☆今までの探究を実社会と結びつけて、今後の生活に活かそうとしているか、ワークシートから評価する。</p>
<p>まとめ・表現 【1月】 2時間</p>	<p>○卒業探究をまとめ、最終発表を行う。</p> <p>・現段階でのMyベストコロッケは、安養寺みそとアオバツを使った揚げたてコロッケがよさそう。ソースがなくてもおいしいと言ってもらえたので、冷えてもおいしいコロッケのレシピも考えてみたいと思った。</p> <p>・発表してみたら、みんなから意外と関心もってもらえた。身近な川をもっと大切にしてもらえるようにいろいろな提案を考えたい。</p>	○	○	○	<p>☆まとめと最終発表を通して、探究的な学習の良さを理解し、実社会に活かすことの喜びを感じることができたか、ワークシートや発表の姿から評価する。</p>

### 3. 本時案

(1) 主眼 自らの興味関心をもって調べてきた卒業探究を発表し、アドバイスや疑問について参観者と対話することで、新たな問いや今後の見通しをもつことができる。

#### (2) ポスターの発表の流れについて

- ・4人1組でグループを作成し、ポスターを発表する。
- ・体育館にブースをつくり、発表を行う。残りの3人は発表を聞く。

1人の持ち時間（10分）		準備時間（2分）
ポスター発表（3、4分）	対話の時間（6、7分）	
<p>・聞いている生徒はポスターの前に着席する。大人の方は立ったままでもよい。</p> <p>・ポスターを使いながら、相手に興味をもってもらえるように発表をおこなう。</p>	<p>・「発表者の問い」・・・発表者が今後の展望などで困っていることやどうしていったらよいかなどを参観者にアドバイスを求め、対話する。</p> <p>発表者の問いが終わったら、</p> <p>・「参観者の問い」・・・発表を聞いている人が、探究で疑問に思ったことや自分で考えたことを発表者に問いかけ、対話をする。</p> <p>時間が来てしまった場合はアドバイスや質問カードを渡す。</p>	<p>・ポスターをはがし、次の発表者は準備する。</p> <p>・大人の参観者は移動する。</p>

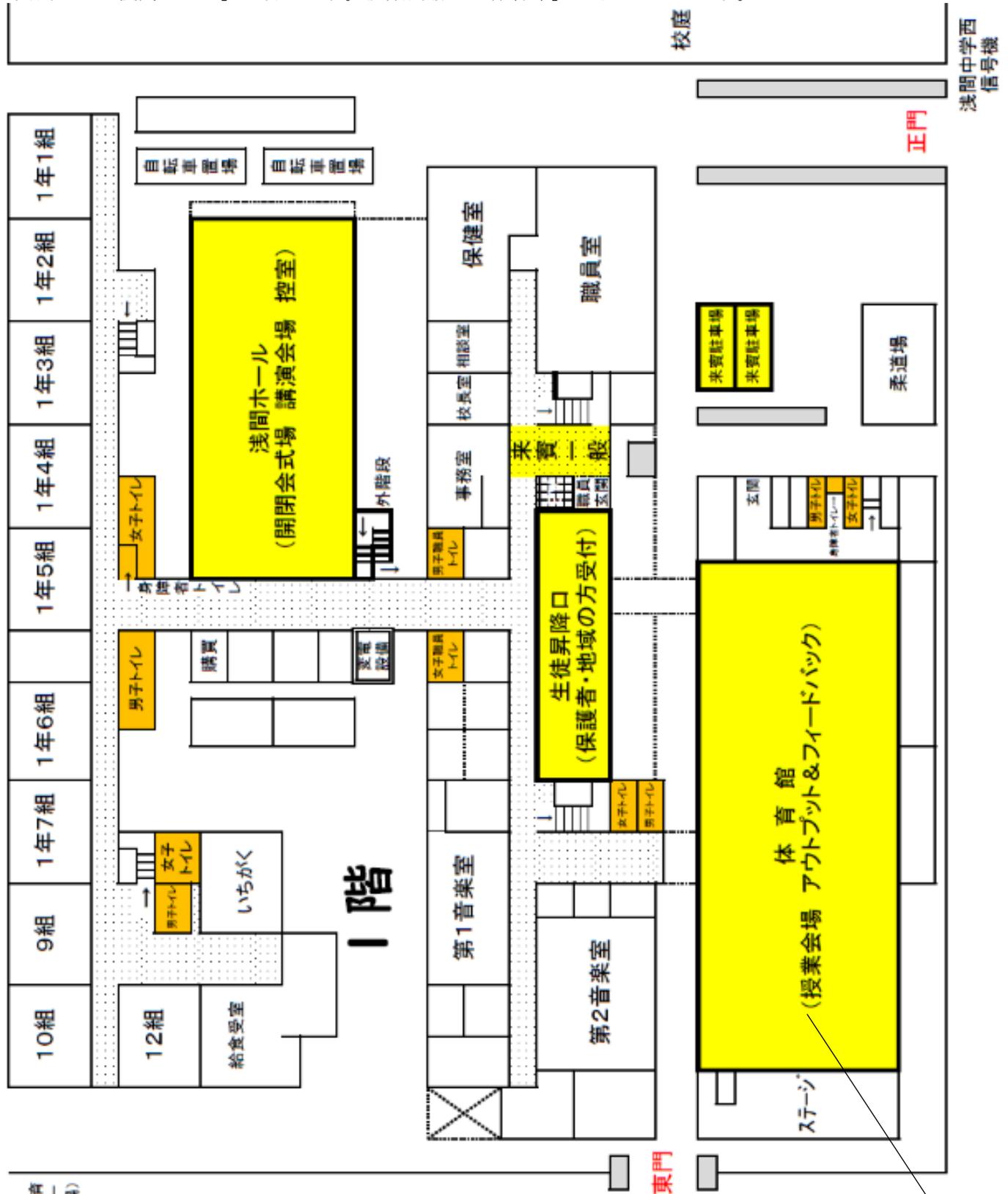
(3) 本時の展開

	学習活動	活動内容	教師の活動
導入 (3)	・発表方法の確認	○自分の「卒業探究」を発表し、今困っていることや今後行いたいことについてアドバイスを求め（発表者の問い）、対話により参観者の疑問に答えたり、考えを述べたりすることで、よりよい「卒業探究」に活かしていこう。	・本時の確認は教師が全体に説明する。  タイマーを用意 振り返りシート 配布
生徒の問い 卒業探究を今後どのように進めていけばよいだろうか？			
展開 (50)	・ポスター発表を行う  ・アドバイスや質問（フィードバック）を行い、対話をする。	○まとめたポスターを使って、参観者に興味をもってもらえるように、自分の「卒業探究」を伝えよう。 ・私は、「佐久市のものをつかって My ベストコロッケを作るには？」という問いをもち、実際にコロッケを食べ比べたり、試作品を作ったりして、ベストコロッケのレシピを考えました。みなさんからアドバイスをもらい、さらにおいしくなるように考えていきたいと思います。 ・私は、身近な川である「湯川大調査」を行いました。身近な川のことをよく知りたい、台風のあとから川にホテルが現れるようになった理由を知りたいという問いから、この探究を始めました。今後は、昔と今の川の様子の違いを知りたいと思っています。  ○「発表者の問い」と「参観者の問い」を対話形式で交流しよう。 ※「発表者の問い」…発表者が今後の展望などで困っていることやどうしていったらよいかなどを参観者にアドバイスを求め、対話する。 ・コロッケがおいしいと感じる要素はなんですか？ ・湯川の昔の様子が知るために、どこに行けば良いと思いますか？ ※「参観者の問い」…発表を聞いている人が、探究で疑問に思ったことや自分で考えたことを発表者に問いかけ、対話をする。 ・ジャガイモの種類でコロッケにおすすめの種類とかはあるのですか？ ・川にゴミとかあると汚れるのはなぜですか？	・聞いている人に興味をもってもらえるような発表の仕方を伝える。 ・生徒の発表の様子を観察する。  ・「発表者の問い」は事前に考えてさせておく。 ・困っている発表者がいたら、参観者に問いを投げかけるように声をかける。 ・「参観者の問い」は、発表を聞いて考えさせる。短い問いかけにする。時間が足りない場合、カードに書いて渡す。
振り返り (7)	・本時の振り返り	○フィードバックを通して、新たに生まれた問いや今後の展望をワークシートに記入する。 ・参観者からもらった質問で自分が気づかなかったおいしさの要素があったから、レシピに取り入れてみたいと思った。 ・川の幅などは昔の地図を見れば分かるかもしれないと思った。	・フィードバックを受けて、新たに生まれた問いや考え方が変化したことをワークシートに書くように伝える。

6 校舎案内図・駐車場案内

【校舎案内図】

- 一般参加の先生方は、浅間体育センター駐車場へ駐車をお願いします。詳細は次頁をご参照ください。受付場所は、東門より敷地に入っていただき、職員玄関で行います。なお、生徒昇降口は保護者・地域の方の受付場所となりますので、ご承知おきください。
- 開会式は「浅間ホール」で行います。授業会場は「体育館」となっております。



至  
浅間体育  
センター  
(駐車場)

【参観される先生方へのお願い】

本時は、生徒との対話に参加していただく形式の授業となります。3年生がこれまでの探究を発表(=アウトプット)しますので、先生方は質問や意見、助言(=フィードバック)をお願いします。なお、テーマや問いの一覧やブース一覧につきましては当日配布いたします。

【駐車場案内図】

①佐久インターより

佐久インターを出る→佐久 IC 入口信号右折→佐久 IC 西信号左折→ 141 号線を南下→  
浅間中学西信号左折→体育館と「あい膳」の間を右折する

②幹線道路からより

イオンモール佐久平店南 浅間中学西信号→体育館と「あい膳」の間を右折する

